助成事業実施報告書

2023 年 4 月 13 日

助成事業実施報告書

団体名 大山崎町三つ和母子会

代表者・役職名 氏名 会長：中島晴惠

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

大山崎町子どもの居場所

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度

〇子どもの居場所（毎週水曜夜、公民館に集まりひとり親家庭の小中学生を対象とした学習支援をしました。長期休業中には宿題や制作に取り組み、時々の日曜日には調理をはじめ季節の取組をしました。）

退職教員や学生の方に教えていただき、じっくり分かることを大事に学習に向かわせています。縦割り集団と人との関係の中で、子ども達は学習習慣を少しずつ身につけ、学力だけでなく精神的な成長を見せてくれています。

〇フードパントリー・物品支援

家庭状況などにより子どもの食事が貧困になっており、食事支援は重要となっています。水曜日の居場所では、栄養バランスを考えた夕食を提供しました。食料品や生活必需品等の物品支援もできました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

・年間 51 回の居場所、延べ 700 人の子ども達が参加しました。居場所には含みませんが、社協助成金による調理や正月に向けての取組も親子で楽しまれています。

・手作り教材・教具やその子に合ったものを先生が準備され、子どもが「分かった！」と喜んでいます。保護者からは、参観日に挙手していました、と喜ばれています。

・学力だけでなく、喧嘩をしたとき等落ち着いて自分の言葉で話すことで言葉で表現する力を付け、気持ちをコントロールする力を付けてきています。

・保護者が登校渋りや学習課題、進路について相談されたりするようになり、親にも寄り添ってひとり親の孤立を防ぐようにしています。

・養育困難な家庭等に本居場所が紹介されるようになってきています。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

・コロナにより親の収入が減り、経済的困窮具合が厳しくなっているため、官民の大きな支援が必要です。

・機会があれば親の声を聞き、関係機関に届出たり支援につなげる努力をしていますが、個人情報の壁があるため支援が必要な方をこちらが知りえません。

・大きな課題を持った子がここを安心できる居場所としていますが、受け止める人件費・食材費などが膨らみ、予算が足りません。

・虐待や困窮について公的機関の会議でも積極的に発言していますが、あまり知られておらず、見える化が必要です。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください